

《命を守ることができるように》 R7.7.4

近年、熱中症や雷対策と行った、命を守る手立てを早急に考えなくてはいけないことに直面する場面が、学校でも増えてきました。

先週・今週は下校時の雷が心配されたため、何度も下校時間の調整を行い、保護者の皆様や学童・放課後デイの皆様等には色々のご協力をいただき本当にありがとうございました。

ご迷惑をおかけすることになってしまおうとわかっていながらも、子どもたちの命を守ることを第一優先に考え、学校として決断させていただいています。

しかし、一度もお叱りの連絡をいただくことはなく、逆に「素晴らしい判断でした。」と匿名のお電話をくださった方もいるほどで、本当にありがたく感じております。

日々、予定外の苦渋の決断をする中で、実は子どもたちにも変化が現れています。

「先生、空が暗いけど今日は雷大丈夫かな？」

「雷が、遠いけどゴロゴロしているよ？平気？」

など、こちらが何かを言わなくても、自分達で空の様子を気にするようになっているのです。

同じように、熱中症対策で行っている休み時間の外遊び制限の取り組みでも、子どもたちの様子に変化があります。

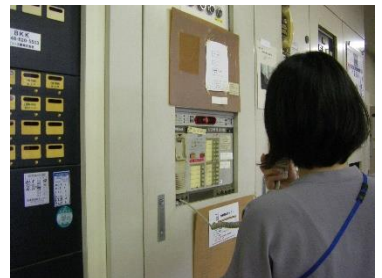
養護教諭が、休み時間直前に

「今日の暑さ指数は 29.4 です。外遊びはできますが、水分をしっかりと、帽子をかぶって、日陰で休憩を取りながら遊びましょう。」

「今日は、暑さ指数が 31.6 です。外遊びはできません。教室で、トランプや UNO 等で静かに遊びましょう。」

と日々呼びかけていたところ、

校庭にある、暑さ指数を測る WBGT 測定器を自ら確認して外遊びをする子が増えてきたのです。



雷対策も熱中症対策も、最終的には、子どもたちが、自ら考えて行動することがとても大切です。大人がいない場面では、自分達で可能な限り情報を集めたり、危険を察知したり、判断したりすることが必要になってくるからです。

日々の学校での判断が、**子どもたちが『自分の命は自分で守る』**ことへの入口になってほしいと願っています。